

みやにつうしん 宮二通信

2005/3/1

第10号

日本と他の水田農業国の違い

世界の総農地面積は15億haです。そのうちの83%は雨水だけに頼っている天水農地です。残り17%のうち約半分9%が灌漑畑作で残り8%が灌漑水田です。この8%に日本を始めとする東南アジアの水田農業国が含まれています。世界の中では少数派ですね。

さて、世界の水田農業国の平均反収は300kg/10aですが、これに対し日本の平均反収は2倍の600kg/10aです。この差はどこからきているのでしょうか。品種、栽培技術等の違いもありますが、この差を一言で言えば必要な時に必要な水を田圃に届けられるか否かの違いです。つまり、田圃に水が届くという一見当たり前のことが世界の中では決して当たり前ではなく、それが国全体でできている日本は水田農業の最先進国だということです。

フィリピン、インドネシアなどの水田農業国の主要な灌漑施設は、国際援助機関や先進国の援助で建設され中央政府や地方政府が維持管理してきました。しかし、中央政府や地方政府は維持管理の財政負担が重荷になってきたので、農民に水利組合を結成させ灌漑施設の管理を移管しようとするようになりました。もっともそれらの国にも小規模な土水路を造ったり補修したりする程度の共同組織はありますが、鉄やコンクリートでできた構造物を維持管理するとなると手に負えません。労力だけでなく、技術と資金が必要となるからです。結果、いくら政府が“水利組合を組織化しよう”と旗を振っても組織化は進まず、できた水利組合の多くも活動は年数回集まってお茶をのむだけで水利費も集めない名ばかりの状態です。

これらの国の灌漑施設を上流から下流へ見ていくと面白いことがわかります。上流の水源施設である貯水池もその直下水路も満々と水をたたえているのに、水路の分岐点や水路の途中でパタッと水の流れが途絶えるのです。分岐点では分土工のゲートが壊れ、水路の途中ではコンクリート水路が崩落してそのまま放置されているのです。せっかく造った灌漑施設も年月の経過と共に下流側から機能を喪失していき、田圃は収量の少ない天水田に戻るのです。

これまでに先進国や国際機関の援助によって建設された多くの灌漑施設は必ずしも所期の効果を上げていません。灌漑施設はお金さえつぎ込めばすぐ造れますが、それを維持管理する組織をつくることは容易でないからです。もともと天水農業と畑地灌漑の経験しかない欧米の国、機関が水田農業の援助をするという点に無理もあったように思います。欧米の国、機関も苦い経験を経て灌漑施設を維持管理する組織の重要性を認識するに至りましたが、理想のモデルが日本の土地改良区だと彼らが認識するようになったのはつい最近のことです。

古くは起源を江戸時代に発する日本の土地改良区は、厳しい水争いの経験の中から水利利用秩序を確立し、受益農家から徴収するお金で営々と灌漑施設の機能維持を図ってきた技術も能力もある組織です。このようなしっかりした組織が全国津々浦々張り巡らされて灌漑施設の機能を維持している国は数ある水田農業国の中でも日本をおいて他にありません。援助の話に戻りますと、以前は灌漑施設の建設ばかりに目が行っていてうまくいかなかった。今は、維持管理が重要でそのモデルは日本の土地改良区だということもわかったけれども、今度は日本の土地改良区のような組織が一朝一夕にできるものではないという現実に直面することになったのです。

次号に続く (所長 八木正広)

国営宮川用水第二期事業で造成した施設の管理について

平成7年度より国営宮川用水第二期事業を実施しています。平成16年度現在の進捗率は47%となっています。本事業によって造成された施設は、宮川用水土地改良区が管理する予定となっています。

そこで、宮川用水土地改良区について紹介させていただきます。

宮川用水は、伊勢平野南部の田や畑に必要な農業用水を流しています。この農業用水を流すための水路や施設を管理しているのが宮川用水土地改良区です。

管理とは、用水路を直したり、草刈りをしたりして、水を無駄なく田や畑に配水することをいいます。

宮川用水の用水路は、次のように区分されています。

国営線・・・国（農林水産省）で造った水路や施設

県営線・・・三重県で造った水路や施設

団体営線・・・宮川用水土地改良区で造った水路や施設

その他の線・・・宮川用水土地改良区のほかの土地改良区や市町村役場で造った水路や施設

これらの用水路を宮川用水土地改良区では、
 の国営線は国から委託を受け管理
 の県営線は県から管理を任せられ管理
 の団体営線は宮川土地改良区で管理
 のその他の線はほかの土地改良区や市町村役場やそれぞれの字で管理

このほかに、ため池や揚水機場も管理しています。



花物語



【ちゅ - りっぷ (チュ - リップ)】
 ユリ科の多年草。観賞用。小アジア原産でオランダで品種改良された。花茎は球根から出て下半に狭長楕円形の葉をつける。花色は白・赤・黄・黒紫など豊富である。



【すいせん (水仙)】
 ヒガンバナ科スイセン属の植物の総称。地中海沿岸原産。北半球の暖帯に分布。多年草で鱗茎からリボン状の葉を根生。

～ 齋宮池の歴史の上に～

齋宮調整池の建設

現在の齋宮調整池は、当時の水飢饉を解消するために永島遊賀を始めとした地元の有志によって1735年（宝暦3年）に造られた容量約20万m³のため池です。

1964年（昭和39年）からは、地役権の設定により宮川用水の水運用を調整する施設としても位置付けられ、受益が宮川用水地域全域に及ぶようになりました。

建設から252年を経過した今では周囲の環境とも見事に調和して、四季のうつろいを湖面に写しながら立派にその役割を果たしています。

当事業では、この齋宮池と隣接する惣田池、周辺の農地や山林などを取り込んで容量200万m³の調整池を作り、毎年のように繰り返される水不足の解消に役立てようとするものです。

これまで積み重ねられてきた歴史を踏まえ新たな役割を付加させることによって、地域のために心血を注いだ先達の意志を将来に引き継いでいくものです。

建設には、地元、地権者始め関係する方々のご理解とご協力が必要です。

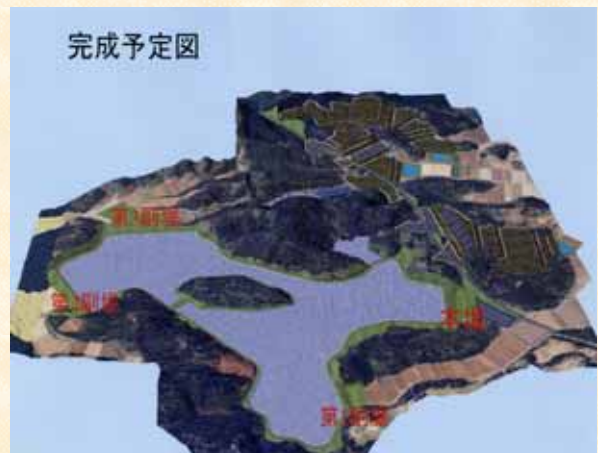
現在当事業所では、地元住民や地権者の方々に順次建設計画の説明を行っており、これまで幸いにして多くの方々のご理解をいただいているところです。

引き続き用地買収や工事の実施に向けてご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。

（顕彰碑）



（完成予定図）



みどり
水土里シリーズ

宮川用水って？

第8回

・水田の役割

水田の稲も光合成によって空気をきれいにしています。

～ 空気の浄化 ～

水田には、たくさんの生物（昆虫、草花など）が生きています。

～ 生態系の保全 ～

このように、水田にためられた水は、稲を育てるだけでなく、自然環境を守ったり、生活環境を守っていく上で、重要な役割を果たしています。



言葉で綴る伊勢の旅（第1回）

方言で話すと、標準語で話すより初対面の相手でも気持ちがうちとけて、よく心が通じ合うことがあります。

また、方言には標準語では言い表せないこまやかな感情を表現することができます。

地元の方と話をすると「あんな」「そやなー」と語尾に「な」をつける言葉をよく耳にします。この伊勢の「な」言葉といわれる、やわらかい、温かい話し言葉に伊勢地方の方の優しい気質が表わされているように感じます。

「おおきんな」

お店のレジで代金を払うと、お店のおばあちゃんが「はい、500円おおきんな」と言ってくれました。

この「おおきんな」は伊勢のことばで、標準語では「ありがとう」の意味です。

関西弁の「おおきに」と伊勢の「な」言葉（語尾に～なを付ける）が合体した心温まる方言です。

ちなみに私の出身地名古屋では「ありがと」となり、「が」にアクセントがあります。

工事案内

併設用水路工事は、コンクリート打設作業を終え、いよいよ道路、水路、耕地の復旧作業等を開始します。

近隣住民の皆様には大変ご迷惑をお掛けしておりますが、ご理解ご協力の程、宜しくお願い致します。

（併設用水路その1工事始点 平成17年2月22日撮影）



[工事概要]

1. 工事名 宮川用水第二期地区 併設用水路工事
2. 施工場所 三重県多気郡多気町笠木及び土羽地内
3. 施工延長 L = 1,459.16m
4. 工事内容 現場打ちホックス加ハート（B3.8m×H2.4m）
5. 工期 平成16年8月31日～平成17年3月25日
6. 工事進捗率 90%（2月末日時点）

主要工種	施工時期	作業内容
準備工	9月	現地調査、測量
土工、撤去工	10月	工事用道路造成、道路・水路撤去
暗渠工	11月～2月	鉄筋・型枠組立、コンクリート打設
復旧工	3月	道路・水路・耕地復旧
後片付け	3月末	

連絡・問い合わせ先

編集：東海農政局宮川用水第二期農業水利事業所

〒516-0802 三重県度会郡御園村大字新開 892

0596(31)0555 FAX 0596(31)0510

<http://www.tokai.maff.go.jp/nougyou/seibi/kensetu/miyagawa/miyagawa.htm>